

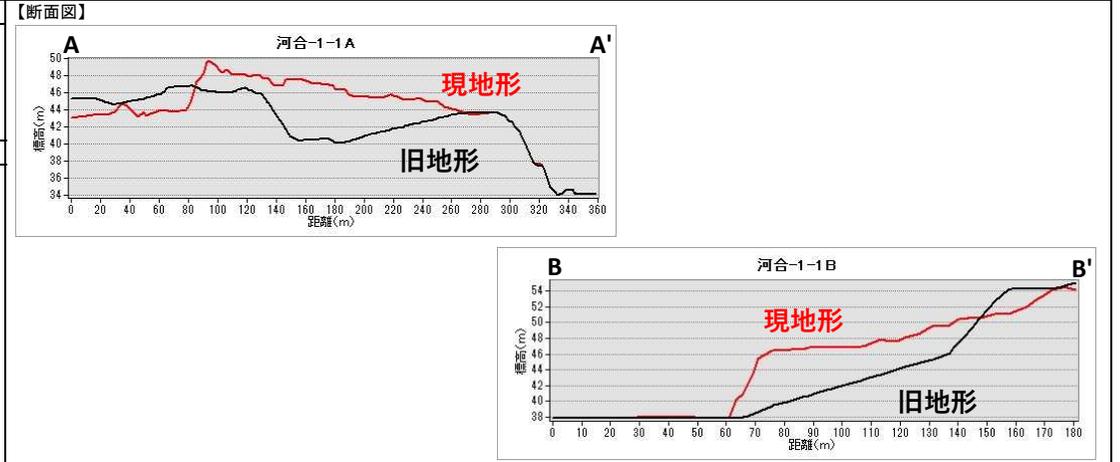
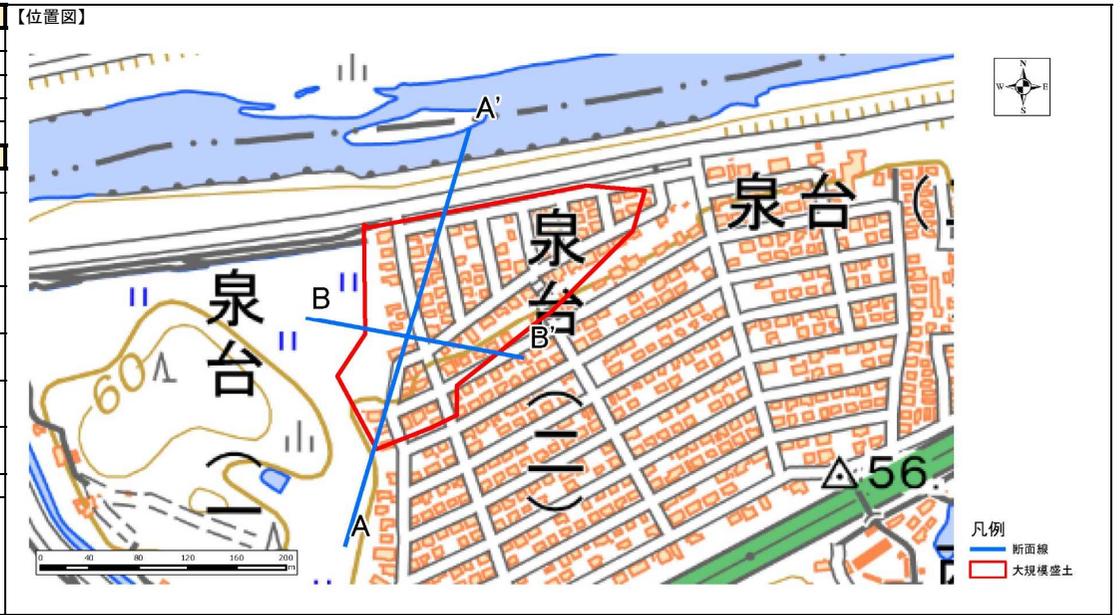
宅地概要 (第一次スクリーニング結果)								
盛土番号	河合-1-1	宅地名	泉台	造成(許可)年代	S36~S46			
所在地住所	河合町泉台2丁目							
盛土形式	<input checked="" type="checkbox"/> 人工造成地 ( <input checked="" type="checkbox"/> 谷埋め型 <input type="checkbox"/> 腹付け型 ) <input type="checkbox"/> 自然斜面							
盛土形状	盛土面積A	18497 m <sup>2</sup>	盛土幅W	162 m	盛土距離d	111 m	天端幅(腹付け型) L	m
	盛土高さH	17 m	盛土厚さD	m	元地盤勾配α	9 °		

宅地概要 (第二次スクリーニング計画の作成)		
優先度評価項目	判定	記事
① 盛土および擁壁の形状と構造が標準的な形状と構造に該当	<input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/> 該当	
② 宅地地盤・擁壁・のり面の変状	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
③ 地下水	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 可能性有	
④ 盛土の下の不安定な土層	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 不明	
⑤ 造成年代 (基準年以前/以後)	<input checked="" type="checkbox"/> 以前 <input type="checkbox"/> 以後	
⑥ 変動確率	<input checked="" type="checkbox"/> 大 <input type="checkbox"/> 小	

【総評】	標準的な形状・構造の谷埋め型盛土であり、末端部は概ねブロック積擁壁よりなるが、一部はブロック積擁壁+のり面となっている。ブロック積擁壁には恒常的な出水はなく、クラックが見られるものの、変状の発生は局所的である。のり面は植生の繁茂により自然斜面に近い状況を示し、不安定化の兆候は見られない。盛土内には戸建ての住宅が建ち並び、極一部の住宅の外壁にクラックが見られたが、変状の発生は局所的であり、盛土の変状を示すものとは考え難い。造成年代は基準年以前である。以上より、当該箇所の優先度は「B3」と判断した。また、想定被害形態は、末端部のブロック積擁壁が不安定化した場合には住宅地への影響が考えられることから、「擁壁の不安定化による擁壁倒壊・背面土の崩壊」とした。	想定被害形態
	擁壁の不安定化による擁壁倒壊・背面土の崩壊	
	優先度	

宅地概要 (第二次スクリーニング)						
【地盤定数】			【安定計算結果】			
代表N値	単位体積重量 (kN/m <sup>3</sup> )	粘着力 (kN/m <sup>2</sup> )	内部摩擦角 (°)	せん断波速度 (m/s)	常時	地震時
盛土						
地山						

【総評】	【工事の記録】
	【点検の記録】



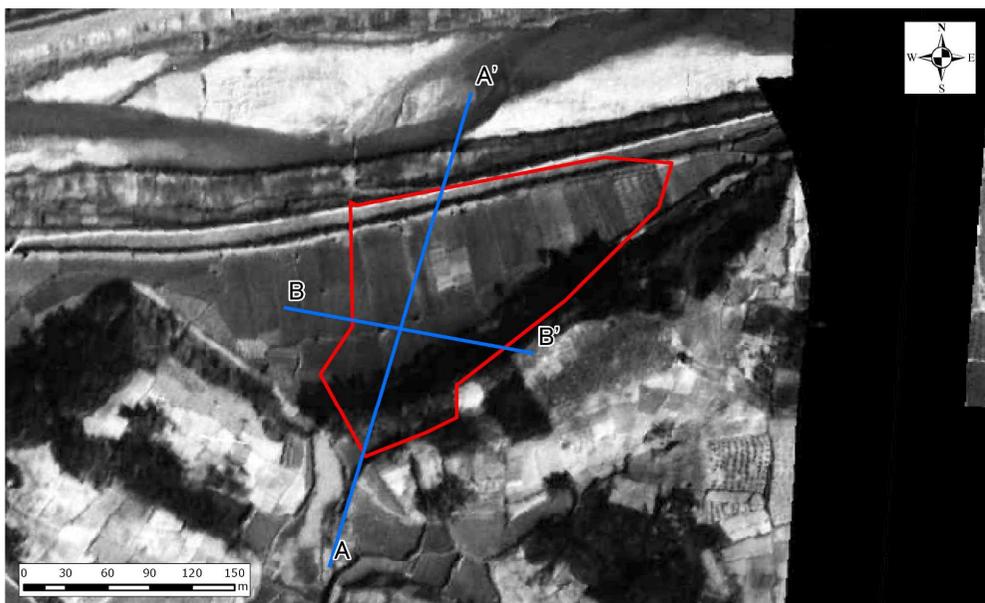
変動予測調査後	
【工事の記録】	
【点検の記録】	

宅地カルテ（第一次スクリーニング結果）

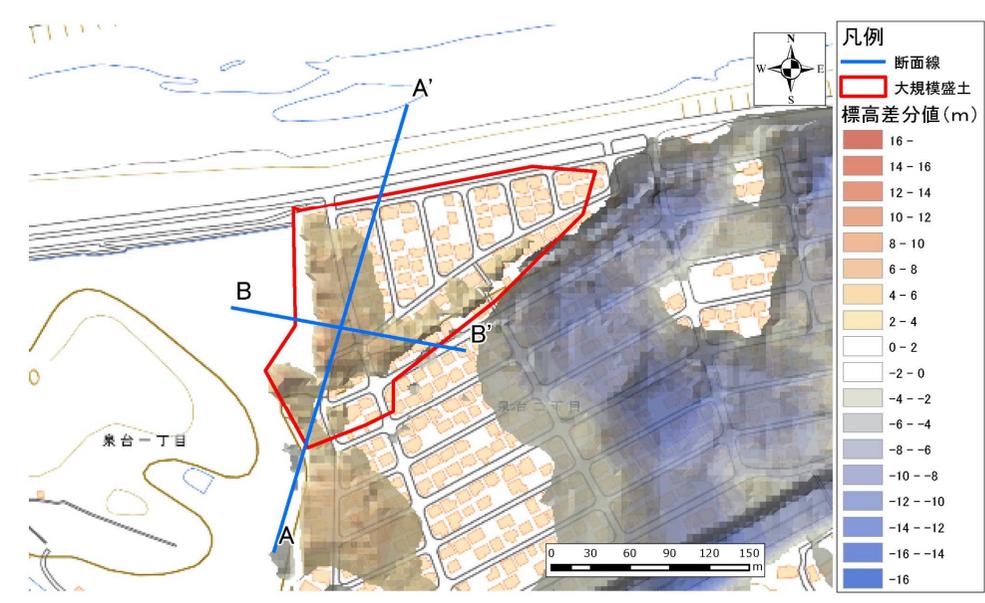
様式2

盛土番号	河合-1-1	宅地名	泉台	造成年代	S36~S46	盛土形状	盛土面積A	18497 m <sup>2</sup>	盛土幅W	162 m	盛土距離d	111 m	天端幅（腹付け型）L	m
所在地住所	河合町泉台2丁目					盛土形状	盛土高さH	17 m	盛土厚さD	m	原地盤勾配α	9 °		
盛土形式	<input checked="" type="checkbox"/> 人工造成地 （ <input checked="" type="checkbox"/> 谷埋め型 <input type="checkbox"/> 腹付け型 ） <input type="checkbox"/> 自然斜面					特記事項								

【背景（昭和21年度航空写真）】



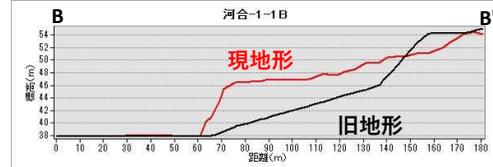
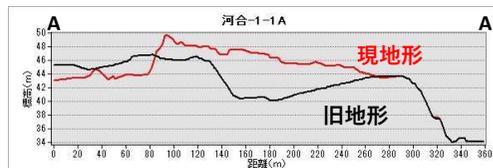
【差分図（背景現地形図）】



【空中写真】



【模式断面図】



宅地カルテ（第二次スクリーニング計画の作成（1））

様式3

基礎資料整理			現地踏査								
チェック項目	判定	記事	調査日時		天気記録	調査日	1日前	2日前	3日前	4日前	5日前
・住宅	■有 □無	( 96 ) 軒 ( )	2022年11月4日		9:30	0	0	0	13	0	0
・住宅公共施設等	■有 □無	■避難所 ( 泉台第2公園 ) □緊急輸送路 ( ) □河川 ( ) □鉄道 ( )	・宅地内の平面図との相違		降水量 (mm)	0	0	0	13	0	0
・その他特記事項	—		・盛土形状の机上調査との相違		調査日	0	0	0	13	0	0
各種指定の有無	■有 □無	■宅地造成工事規制区域 □災害危険区域 □人口集中地区DID □土砂災害特別警戒区域若しくは土砂災害警戒区域 □急傾斜地崩壊危険区域 □砂防指定地 □地すべり防止区域	・盛土末端部の状況		1日前	0	0	0	13	0	0
・その他特記事項	—		土質 ・原地盤材料の確認		2日前	0	0	0	13	0	0
その他	—		質 ・盛土材料の確認		3日前	0	0	0	13	0	0
	—		地質 ・既往調査の資料		4日前	0	0	0	13	0	0
	—		質 ・その他特記事項		5日前	0	0	0	13	0	0
	—		優先度評価項目		判定 (記事)						
	—		①		・盛土のり面勾配 □急 ■適 勾配(1: 1.8) ( )						
	—		の形状および構造		・小段の設置 □不適 ■適 高さ( 2 )m 段数( )段 (小段なし)						
	—				・のり面保護工の設置 □不適 ■適 ( 植生のり面 )						
	—				・ひな壇部分の傾斜 □急 ■適 傾斜角( 3 )° ( )						
	—				・擁壁構造の適格性 □不適 ■適 □鉄筋コンクリート構造 □無筋コンクリート造 ■練積造 □その他 ( ) 高さ( 3~5 )m 壁面勾配(1: 0.3)						
	—		②		宅地地盤・亀裂、沈下、隆起 □有 ■無 ( 極一部の宅地外壁にクラック有り )						
	—		のり面盤の変状		擁壁とその基礎の変状 □有 ■無 ( 擁壁のクラックは局所的 )						
	—				擁壁背面の変状 □有 ■無 ( )						
	—				擁壁の補修履歴 □有 ■無 ( )						
	—				ガリ侵食跡 □有 ■無 ( )						
	—				表面の不陸又は凹凸 □有 ■無 ( )						
	—				亀裂 □有 ■無 ( )						
	—				排水溝の変状 □有 ■無 ( )						
	—				災害痕跡 □有 ■無 ( )						
	—				根曲り □有 ■無 ( )						
	—				道路の変状 □有 ■無 ( クラックは舗装の老朽化に伴う )						
	—				その他特記事項 ( )						
	—		③		盛土のり面からの湧水 □有 □可能性有 ■無 ( )						
	—				擁壁水抜き穴からの恒常的な出水 □有 □可能性有 ■無 ( )						
	—				ひな壇部分の擁壁前面部の出水 □有 □可能性有 ■無 ( )						
	—				排水工や擁壁の恒常的な湿り □有 □可能性有 ■無 ( )						
	—				盛土のり尻排水工の水没 □有 □可能性有 ■無 ( )						
	—				排水工の目地・亀裂からの地下浸水 □有 ■無 ( )						
	—				盛土のり尻のため池等の満水位 □有 ■無 ( )						
	—				既存井戸水位 □有 ■無 ( )						
	—				盛土のり尻の調整池・ため池 □可能性有 ■無 ( )						
	—				集水地形上の盛土 □可能性有 ■無 ( )						
	—				盛土上ガレージの湿り □可能性有 ■無 ( )						
	—				水を好む植生の有無 □可能性有 ■無 ( )						
	—				その他特記事項 ( )						
	—		④		盛土周辺の崖錐、崩積土 □有 □無 ■不明						
	—				盛土周辺の沖積粘性土 □有 □無 ■不明						
	—				盛土周辺の沖積飽和砂質土 □有 □無 ■不明						
	—				その他特記事項 ( )						
	—		【総評】		標準的な形状・構造の谷理型盛土であり、末端部は概ねブロック積擁壁よりなるが、一部はブロック積擁壁+のり面となっている。ブロック積擁壁には恒常的な出水はなく、クラックが見られるものの、変状の発生は局所的である。のり面は植生の繁茂により自然斜面に近い状況を示し、不安定化の兆候は見られない。盛土内には戸建ての住宅が建ち並び、極一部の住宅の外壁にクラックが見られたが、変状の発生は局所的であり、盛土の変状を示すものとは考え難い。造成年代は基準年以前である。以上より、当該箇所の優先度は「B3」と判断した。また、想定被害形態は、末端部のブロック積擁壁が不安定化した場合には住宅地への影響が考えられることから、「擁壁の不安定化による擁壁倒壊・背面土の崩壊」とした。						
	—				被害形態 擁壁の不安定化による 擁壁倒壊・背面土の崩壊						
	—				優先度 B3						

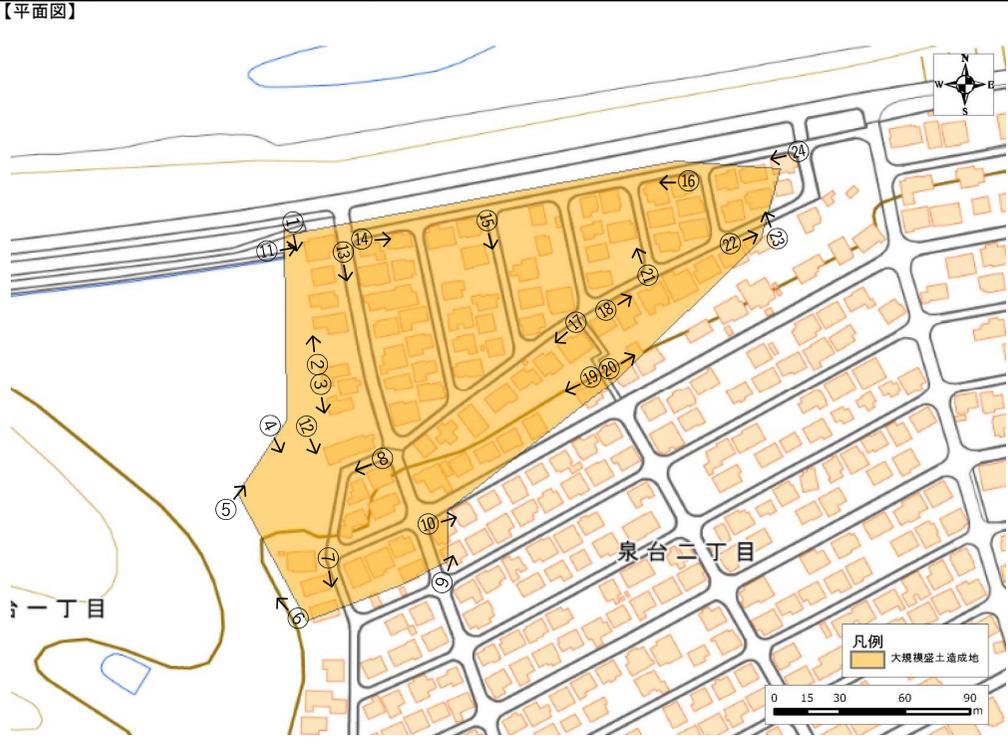




写真1 盛土末端のブロック積擁壁



写真2 盛土末端のブロック積擁壁



写真3 末端擁壁およびのり面の状況



写真4 末端擁壁およびのり面の状況



写真5 盛土末端のブロック積擁壁



写真6 盛土末端のブロック積擁壁



写真7 南側境界付近の土地利用状況



写真8 中央部 土地利用状況



写真9 南側境界付近の土地利用状況



写真10 南側境界付近の土地利用状況



写真11 末端擁壁のクラック (4cm)



写真12 末端擁壁のクラック (2cm)



写真13 中央部 土地利用状況



写真14 北側境界付近の土地利用状況



写真15 中央部 土地利用状況



写真16 北側境界付近の土地利用状況



写真17 中央部 土地利用状況



写真18 中央部 土地利用状況



写真19 中央部 土地利用状況



写真20 南側境界付近の土地利用状況



写真21 中央部 土地利用状況



写真22 頭部 土地利用状況



写真23 宅地塀の開口ひび割れ(2mm)



写真24 頭部 土地利用状況



写真25

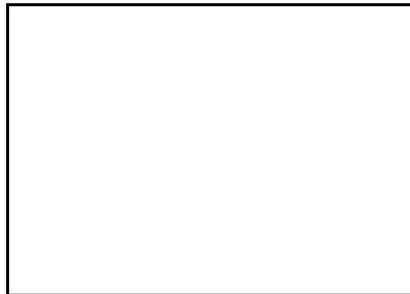


写真26

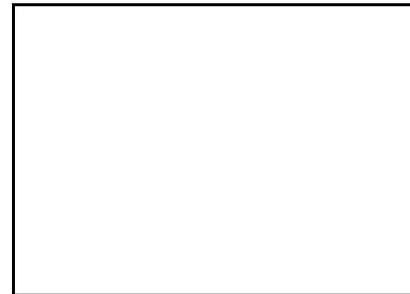


写真27

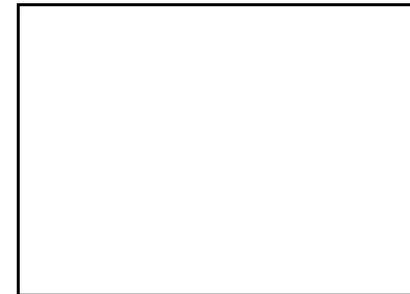


写真28

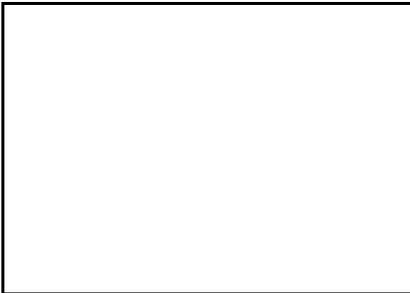


写真29

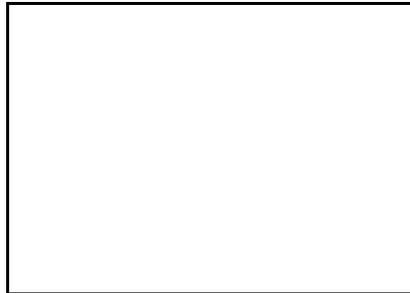


写真30

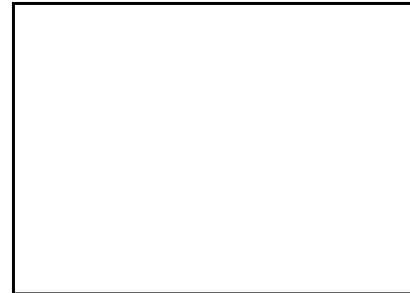


写真31

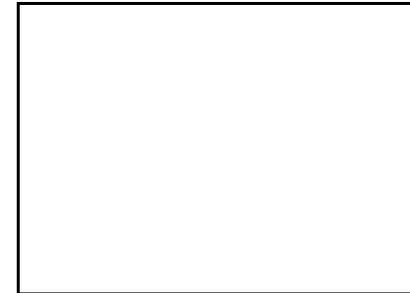


写真32

